

第 119 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	受取手形	売買目的有価証券	未収金
前払金	立替金	手形貸付金	土地
仮払金	支払手形	未払金	前受金
預り金	手形借入金	仮受金	資本金
引出金	売上	受取手数料	受取利息
固定資産売却益	仕入	給料	旅費交通費
手形売却損	支払手数料	支払利息	固定資産売却損

1. 以前に売上代金の一部として受け取っていた得意先振り出しの約束手形 20,000 円を取引銀行で割り引き、割引料として 500 円を差し引かれた手取金は当座預金とした。
2. 売買を目的として、他社が発行する株式 2,000 株を 1 株あたり 100 円で買い入れ、代金は証券会社に対する売買手数料 2,000 円とともに、小切手を振り出して支払った。
3. 約束手形を振り出して 300,000 円を借り入れ、その全額が当座預金の口座に振り込まれた。
4. 従業員が出張から戻ったので、旅費の精算を行い、残金 20,000 円を現金で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。なお、従業員に対しては、出張に当たり、旅費の概算額 100,000 円を手渡していた。
5. 以前に購入した土地（購入価格 1,000,000 円、購入手数料 30,000 円）を、1,100,000 円で売却し、代金は後日受け取ることにした。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金 手形売却損	19,500 500	受取手形	20,000
2	売買目的有価証券	202,000	当座預金	202,000
3	当座預金	300,000	手形借入金	300,000
4	当座預金 旅費交通費	20,000 80,000	仮払金	100,000
5	未収金	1,100,000	土地 固定資産売却益	1,030,000 70,000

・解説

1. 手形の割引に関する問題です。手形は満期日に決済されますが、満期日前であっても銀行に手形を持参して一定の手数料を支払うことにより、手形を現金化することが出来ます。

手形の割引日から満期日までの利息相当分は、**手形売却損勘定で費用処理**します。なお、利息の金額は問題文で与えられることが多いですが、自分で算定する必要がある場合は、問題の指示に従って日割計算（または月割計算）をしてください。

■仮に「手形代金が 100,000 円、割引日から満期日までの期間が 73 日、割引率が 5%」の場合

$$100,000 \text{ 円} \times 5\% \times 73 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = 1,000 \text{ 円}$$

手形の割引に関する問題は、第 109 回の問 4や第 125 回の問 5、第 128 回の問 1でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。同じような形式で繰り返し出題されています。

2. 有価証券の購入に関する問題です。短期的に売買する目的で有価証券を購入した場合は、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上することになります。

ここで注意していただきたいのは、期末評価時や売却時の単価計算も**付随費用が考慮された数字**になるということです。本問では、有価証券自体の単価は 100 円ですが、付随費用を考慮した場合、単

価は 202,000 円 ÷ 2,000 株 = 101 円ということになります。

なお、有価証券の購入に関する問題は、第 103 回の問 5や第 108 回の問 4、第 121 回の問 5、第 124 回の問 5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 手形による借り入れに関する問題です。問題文に「**約束手形を振り出して 300,000 円を借り入れ**」とありますので、手形借入金勘定を使って仕訳を切ることになりますが、支払手形や受取手形勘定を使ってしまった方がいらっしゃるかもしれません。

借り入れに当たって振り出した手形は借用証書の代わりになりますので、**通常の借入金と区別するために手形借入金勘定を使って処理**します。ちなみに、仕訳の考え方や処理方法は借入金と同じです。

この問題は、問題文の「**約束手形を振り出して 300,000 円を借り入れ**」というところがポイントになりますので、見落とさないように注意してください。問題文を読んだ際にアンダーラインを引いたり、丸で囲むなりして強調しておくとしが減りますので、ケアレスミスが多い方は試してみてください。

手形による借り入れに関する問題は、第 107 回の問 3でも出題されています。

4. 仮払金に関する問題です。本問はまず、問題文なお書きの「従業員に対しては、出張に当たり、旅費の概算額 100,000 円を手渡していた」という部分の仕訳を起こしてみるといいと思います。

(借) 仮払金 100,000 / (貸) 現金など 100,000

上記のような仕訳が切られたことを前提にして、仮払金を適当な勘定科目に振り替えることとなりますので、貸方に仮払金勘定が、借方に旅費交通費勘定が入ることが簡単に分かります。

■仮に旅費が 120,000 円だった場合は・・・？

→足りなかった 20,000 円の現金支出を認識することになります。

(借) 旅費交通費 120,000 / (貸) 仮払金 100,000
(貸) 現金 20,000

仮払金に精算に関する問題は、「**仮払いした際の仕訳を考えてみる**」ことがポイントになります。

慣れるまでは実際に下書き用紙に書き出してみるといいと思いますが、慣れてきたらなるべく頭の中で仕訳をイメージして解答できるようにしておいてください。

なお、仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 124 回の問 4、第 129 回の問 4で出題されています。

第 100 回・第 110 回・第 115 回が「仮払金の計上時の仕訳」を問う問題になっているのに対して、第 119 回・第 124 回・第 129 回は「仮払金の精算時の仕訳」を問う問題になっています。

仮払金処理の一連の流れを理解したい場合は、【計上時の仕訳問題→精算時の仕訳問題】の順番で解くようにすると、流れが分かりやすくて良いと思います。

5. 固定資産の売却に関する問題です。固定資産の売却損益は、**売却直前の帳簿価額と売却価額の差額**により算定します。

本問の場合、売却直前の帳簿価額は【購入価格 1,000,000 円＋購入手数料 30,000 円＝1,030,000 円】となりますので、これと売却価額 1,100,000 円とを比較して、売却益の 70,000 円を計上することになります。

また、売却代金 1,100,000 円に関しては商品売買以外の取引から発生した債権ですので、売掛金勘定ではなく未収金勘定を使って仕訳を切ることになります。

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5でも出題されていますので、併せて押さえておくようにしてください。